

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 ゆうしん		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市東区錦ヶ丘26番11号		
自己評価作成日	25年2月12日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階がデイサービス、新館2階に小規模多機能ホーム、3、4階に特定施設があり、合同での行事を年に数回開催し交流を図っている。グループホーム内でも外出行事、誕生日会、ボランティア行事を行い、また、地域の行事へ参加し地域の方との交流を深めている。日常においても食事の仕度や洗濯物たたみなどの生活リハビリや、合同レク、個人レクを行い日々張りのある生活が送れるように支援しています。食事は管理栄養士が立てた献立を基に一人ひとりに合わせた食事形態でバランスの良い家庭料理を提供しています。職員は月に1度のホーム内ミーティングや施設内、外の研修に参加し、介護知識や技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春には桜通りとしてにぎわう立地にあるホームは、パンフレットの中にも地域の公園で桜の花見を楽しむ入居者の写真が掲載されている。高齢者複合施設の中の二階にあるホームは、作年開所した小規模多機能型事業所と合同で運営推進会議を実施し、地域密着型の施設としての役割を十分認識しながら地域になくなくてはならない事業所となるよう、法人全体で日々研鑽に励んでいる。明るく採光の良いリビングから聞こえる歌声やハーモニカ演奏など和やかな日常の場面や、入居者自慢の書の掲示など一人ひとりのこれまでの人生を包み込むような取り組みに力を注いでいる。管理者と介護計画作成担当者は、職員が持ち味を行かせるケアに勤めており、今後も法人の機能を活かしながら入居者主体のホームとして活躍されることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りを始める前に理念を全員で唱和している。 理念を共有して実践につなげるよう、常に努力している。	毎朝の申し送りの前に理念を唱和することで、振り返りや意識を持って一日のケアをスタートしている。また、新人職員の研修では介護課長による指導や推進会議の中でも方針や理念についての説明を行い、理解や啓発に繋げている。	法人内で職員の異動も行われており、今後は入居者や職員の状況に応じ理念を具現化した年・月目標などを定めることにより、更に理念に沿ったケアの実践に繋がることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区のサロンの手伝いや地区の祭り、運動会、どんどやなどに参加しており、利用者も見学に出かけることを楽しみにしている。	校区の祭りや行事への参加や見学は、入居者にとって外出の機会や地域の方々との交流の機会に繋がっている。運営推進会議を通して情報発信や地域貢献に努めていることが確認され、民生委員さんが来訪し、漬物をつけてもらうなど、理解者の存在も力強いものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流サロンの話し合い等で話している。 また、中学校の職場体験やヘルパー等の資格取得のための実習生の受け入れを通して認知症の理解を深めてもらうよう説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に日常生活の様子や行事などを報告し、現状を知ってもらうとともに、様々な意見交換をし、サービスに活かすこととしている。	二ヶ月に一度開催されている会議は、昨年小規模多機能事業所の開設により現在は合同の開催となっている。ホームの現況報告や包括からの地域情報など高齢化社会の中で、介護現場や地域の役割を再認識する機会となっている。また、家族から「もっと認知症について知りたい」という声に認知症サポーター養成講座も開催された。	地域代表者や行政・入居者・家族などの参加により、それぞれの立場から意見や提案が出されていることが記録からも確認された。今後は職場体験の受け入れで交流のある学校関係者やテーマに沿って参加者を依頼するなど、新たな会議への取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで市町村の担当者に出席して頂き、介護についての意見交換をして協力関係を築く様取り組んでいる。	推進会議の中で包括職員を通しホームの現状を確認してもらいアドバイスを受けている。管理者は今後も情報を共有しながらホーム運営に活かしていきたいと語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や月に一度のミーティングの中で話し合いをし、また、日々のケアの中でも拘束にならないか、常に話し合いながらケアを行っている。	法人内研修や月一回のミーティングをはじめ、自身のケアを振り返る機会やスピーチロックについても職員間で気づきを話し合っている。外出傾向や不穏時には見守りや可能な限り一緒に外に出て安心してもらうなど行動を制限しない対応に努めている。	施錠や対象となる拘束の行為に限らず、普段行っているケアが職員の思い込みや制限になっていないかなど、ホーム独自の研修会の開催に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学ぶ機会を持ち、職員は行動や言葉による精神的虐待にならないよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修やミーティングの中でも勉強をしたりして、知識は得ているが、内容を深く活用できている面と、できていない面があり、常に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に契約内容を説明し、不安や疑問がないよう、心がけて話しあっている。また、改定時には事前にお知らせをするとともに、個別説明を実施し、十分な理解、納得を頂いてから、記名、押印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は入口カウンターの上に置いて利用しやすいようにしている。運営推進会議でもご家族様が話せる時間を設けており、今後の運営に活かせるよう努力している。	入居者の要望は日常のリラックスした会話の中で「ごはんはどうですか？」「対応はどうですか？」と具体的に尋ねている。また、家族からは運営推進会議や来訪時に入居者の近況報告を行いながら、何か意見や要望がないか確認を行い、いつでも遠慮なく申し出て欲しい事を伝えている。入所時に公的機関の相談窓口についても説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時やミーティング、ケアカンファレンス時などの中で、意見や提案を出して話し合いを行い、運営に反映させている。	申し送りやミーティングをはじめ職員が集まる機会に、意見や提案を確認する他、管理者は入居者が穏やかにホームの生活を送れるよう気づいた点は気軽に声に出してもらおうよう伝えている。代表者も頻繁にホームを訪れ職員と会話をしながらホームの現況を確認し入居者・職員ともに過ごしやすく働きがいのある環境整備に思いを寄せている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームに頻繁に来られ、職員に話しかけられている。職場環境・条件などについては、個別に話が出来るように配慮していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修が実施されている。また、外部研修の参加の声かけもあり、職員は参加し勉強している。代表者より「ケアの向上に役立つ研修があったら機会を設け」と勧められている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市グループホーム連絡協議会の参加や協議会の研修を通じ同業者との交流を持ち、情報交換している。他法人施設のグループホームと交流の機会を持ち情報交換し質の向上ができるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族が相談に見えた時、本人の意向、困っていること、不安なことなどをよく傾聴し、安心して入居できるよう配慮している。利用前でも相談に応じられることも説明し、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談や電話等で、要望等を素直に受け止めて、アドバイスをしながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族との面談や、これまでのケース記録等から本人にとって、最も必要とされるサービス内容を把握して対応することとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と作業(家事など)を共に行っていく中で、共感できる雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を施設だけで支えるのではなく、その家族と共に支えているということ、家族に理解してもらえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活歴を参考にしながら、馴染みの人や場所の記憶がとぎれないよう、体験(訓練)をしてもらうように努力している。	入居者にとっての馴染みの場所や大切な関係が途切れないようこれまでの生活歴や家族からの情報をもとに支援している。「水前寺公園によく行っていた」との情報から、職員が同行したり、自宅に咲く梅の花を楽しみにされていた方の帰省など、ホームと家族が一緒になって支援している。習字を得意とされた方の作品の掲示や歌やハーモニカ演奏が好きな方が楽しめる機会など趣味や特技も継続して支援している。	今後も馴染みの人や場所とともに、その方のこだわりや習慣などを把握し支援することで、更に入居者の毎日に変化が出てくと思われる。職員のアイディアによる支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者同士の交流を図るためのレクレーション等を積極的に取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族が相談に来やすいように心がけており、又、そのように説明もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を把握するために、本人との会話に時間をかけ、また内容を深めるように努めている。	一人ひとりの思いに応える支援ができるよう、日頃の会話にも本人のペースで寄り添って行うことを心がけている。また、職員間や家族との情報の共有に努め、今何を、どんな思いでおられるのか把握しプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などを参考にしながら、本人や家族の意向を尊重し、その人らしい生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体面や精神面を観察し、職員間の意見交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報収集し、ケース検討会で話し合い、統一した見解で介護計画を作成している。評価に基づき、職員間にてサービス内容の検討や変更・継続の有無をカンファレンスにて行っている。	職員の気づきや意見を取り入れたプランとなるよう、申し送りノートの活用やカンファレンスには全介護スタッフが参加して実施されている。入居間もない方は暫定プランを作成し、通常は一ヶ月から三ヶ月のモニタリング・評価により現況に即したプラン作成に努めている。計画作成担当者は家族へわかりやすい説明を心がけた承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い、ケアの状況、結果を個別記録している。日々の様子から気づいたことも記入し、内容を申し送り情報として共有している。このようなことを介護計画書の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その人に必要な支援が出来るように取り組んでいる。また、ディサービスや特定施設の職員と年に数回の合同行事を計画し、交流の場を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事(花見等)や様々な行事には社会福祉協議会会長や民生委員さんからボランティア紹介などの協力を得て事故のないように配慮を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿った対応を行い、入居前の主治医に継続した医療を行ってもらっている。病状の悪化時などには医療との連携により早期発見に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時の話し合いでホームの協力医や緊急搬送先を説明し、かかりつけ医については入居者に馴染みの医療機関を継続して支援する旨を伝えている。家族による受診を基本としながら状況によっては職員が付き添い、家族の希望に応じて往診医への移行も行われている。職員の誰もが入居者の状態を把握して家族との情報交換に当たるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師と医療連携体制をとっており、週一度看護師による訪問健康観察を受けると共に24時間相談ができ、迅速に適切な対応が取れる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては家族との話し合いを持ち、安心して療養できるよう配慮を行っている。入院中の状況を把握し病院のスタッフと情報共有しながらスムーズな退院、その後の適切なケアが提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認し、医療関係者を交えた話し合いを持ち、グループホームとして出来る限りの対応に努めると共に事業所のできる事、又困難な事を理解してもらっている。医師、看護師も含めた方針を共有し支援している。	入居時に「重度化した場合の指針」を基に終末期ケアの受け入れについてホームの方針を説明して本人、家族の意向を確認している。入居者の状態変化や必要な時点で更に主治医などを交えて話し合い、希望があれば家族や医師と連携し看取りまでを視野に入れ支援して行く方向である。AEDの職員研修を年二回実施し日頃から緊急時対応について危機意識を持って対応している。	入居者の状態がホームの対応で可能な限りは家族の意向に添いたいとして、特に夜間帯は階上にある併設施設の職員との連携の重要性を語っており、体制作りの一つとして終末期ケアの研修や他部署との共有が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し熟知徹底すると共に定期的な社内研修の中でAEDの操作方法や蘇生法を実践し、緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者指導の下、定期的な防災避難訓練を実施。設備等の使用方法を学び、災害時に迅速適切な行動が取れるように取り組んでいる。地域の方とも避難方法の話を運営推進会議を通して行っている。	消防署の指導による年二回の総合訓練がグループホームが入る法人ビル全体で行われ、単独での自主訓練も実施している。ビル二階に位置するホームはテラスへの一時避難を想定し、はしご車など緊急車両の乗り入れについて近隣の土地所有者に承諾を得ている。昨年度の大水害では系列グループホームの避難所として室内を提供するなど連携が図られている。	火災については日々の安全点検をチェック表に残し職員の意識付けを行っているが、地震や水害、台風などの自然災害への取り組みはこれからだとしており、今後は過去の災害を教訓として机上訓練を実施したり、備蓄の内容を検討するなど取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし本人の権利を意識し適切な対応に努めている。特に言葉遣い、虐待防止については研修等を行っている。排泄時等の方法も常にプライバシー保護を厳守している。	職員は入居者一人ひとりに敬いの気持ちを持って対応するよう心がけている。トイレ介助時は女性入居者の膝にタオルをかけたり、ドアの外で待つなど尊厳への配慮をしており、入浴時の同姓介助にも対応している。個人情報保護について家族の同意を得、職員研修で守秘義務に対する共通認識を持って職務についている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出等では内容を分かりやすく説明し自己決定してもらうようにしている。御本人が自己決定できるような環境づくり、言葉掛けをすると共に言動からニーズを読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を理解、把握して、その日の体調に合わせた生活が送れるようにしている。また事故のないように注意しながら、居心地の良い生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場に応じた衣類などのアドバイスをしている。洋服の選択は御本人に行なって頂いているが、毎日同じ服にならないように配慮している。又外出や行事の時はその方らしい身嗜みが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーションの中で好みの食べ物、調理法などを知り、食事やおやつに生かしている。個人の出来ることを把握し、食事の盛り付け、食器の片付けなどを一緒にこなしている。	栄養士が立てた献立により一階調理室で下処理された材料を使ってホームで調理している。毎月一日は赤飯の日として入居者に喜ばれており誕生会などの行事食も提供している。早出、遅出の職員が入居者とテーブルを囲み持参した弁当を広げている。入居者も料理を注ぎ分けたり後片付けなどに参加し出来ることで食に関っている。中には二時間近くをかけゆっくり食事を摂る方も居られ、職員が声をかけながら対応している。	食事が入居者にとって楽しみな時間となるよう会話や食への興味を引き出すよう工夫したり、職員が一名でも検食を摂ることで味や量、硬さなどの評価に繋がり献立に反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態(きざみ・ミキサー・一口大・二度炊き・とろみ)の提供に努めている。食事摂取量の把握を全員行い必要な方の水分量もチェックし脱水にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた援助法で起床後、就寝前、毎食後口腔ケアを行っている。また必要に応じて個別の歯科受診・健診を行っている。通院困難な入居者は訪問歯科で対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンをチェックし把握したうえで時間、表情などで声かけ、誘導を行いトイレで排泄出来るように努めている。トイレでの排泄が続けられるよう自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表は必要な入居者にのみ記録し、他の入居者は個人記録に残しながら声かけや定時誘導により日中はトイレでの排泄を基本として支援している。夜間もポータブルトイレは使われておらず、男性入居者が使用する排泄用具はその都度チェックしている。職員はハイター水を使い便座や手すり、床などをこまめに掃除し、入居者が使いやすいように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、記録し把握している。看護師や主治医と相談している。水分チェックにて水分が不足しないように心がけ、毎日運動の時間を持ち身体を動かすようにし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているため本人の希望時に入浴が出来るように配慮している。一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでいただいている。	週二、三回の入浴日を支援し失禁時は個別に対応している。一人で入る方や二人介助で入る方など個々の希望や身体機能に合わせて時間をかけゆっくりと入ってもらうようにしている。柚子やしょうぶ湯などの季節風呂も入居者の楽しみである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ休憩がとれ、くつろいで過せるように支援している。日中に活動の場を提供して、夜、安眠できる生活リズムが整うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴及び内服薬の用法、副作用について理解し、誤薬などないように、与薬時チェックを職員2名で確認している。また症状の変化について観察し看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせて家事手伝い(食事の盛り付け・洗濯物たたみ・カレンダー作り)の声かけや好きな漢字ドリルを行ってもらったり、パズルゲームやトランプゲームが出来るように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など体調や天候を見ながら支援をしている。また入居者の希望を聞き、相談しながら行き先を決め、ドライブに出かけたり、交流サロンに出かけたり地域の人々との交流が持てるように支援をしている。	入居者はホーム周辺を散歩し近隣の商店での買い物に出かけている。神社参拝、向日葵、菜の花、梅などの花見学、地域の公園でのどんどこやへ参加するなど外出の機会を支援し、家族へも声かけしながら夏祭りや花見への参加が実現している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で必要に応じて支払いを行っている。必要時一緒に支払いを行い、預かり金があることを理解してもらい安心感に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの方から手紙や贈り物が届いたりした時は一緒に電話をかけたり、本人の交流関係が円滑に継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度・遮光などの調整に気をつけて家庭的な雰囲気作りと、プライバシーへの配慮に努め、くつろいだ生活ができるように支援している。	エレベーター前の玄関ドアを開けるとリビングダイニングのオープンな空間が広がり、テーブル席やソファで入居者が思い思いに過ごされている。ビルの中にあっても木をふんだんに使った温もりある造りとなっている。入居者の書の作品や絵画が飾られ掃除の行き届いた明るい室内は訪れるものにも居心地の良い空間を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ等、好きな場所で塗り絵やゲームをしたり、童謡を歌ったり、ハーモニカを拭いたり、木琴を叩いたり、また一人でテレビや新聞を見たり、自分の時間を楽しくでくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れた馴染みのある家具を持ってきてもらい、本人の住んでいた部屋と同じような空間でその人らしい居室で安心して落ち着いて過せるように工夫している。	各居室はテレビやタンス、畳ベッドや仏壇など入居者に縁の品が持ち込まれている。夫婦で入居されている方は使い勝手や意向に添って各部屋を寝室と居間に分離し家族や、知人の面会時は居間でゆっくりと過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る能力を把握し、居室のネームプレートを大きくして理解しやすいようにしたり、トイレの名前も昔の名前で張り紙したり、工夫して安全に配慮しながら自立支援を行っている。		